

札幌市勤務医協議会ニュース

発行 札幌市勤務医協議会
札幌市中央区大通西 19 丁目
札幌市医師会館内

巻 頭 言

「勤務医の声を結集できる組織をめざして」 会長 鶴間 哲弘

残暑の候、会員の先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より札幌市勤務医協議会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

今春を振り返りますと、寒暖差の大きい不安定な気候が続きました。とりわけ北海道特有のしらかば花粉は、例年の2倍以上、前年と比較して3～5倍程度の飛散量と報じられ、外来診療では症状の強い患者や長期化する症例が目立ちました。先生方におかれましても、多忙な日常診療の中で、その対応に追われた方も多かったのではないのでしょうか。

そのような中、5月18日に令和8年度札幌市勤務医協議会総会を開催いたしました。記念講演では、北海道大学大学院医学研究院 画像診断学教室教授 工藤興亮先生に、「医療AIの現在と未来—臨床・研究・学会発表・論文作成における実践的活用—」と題してご講演いただきました。AIは画像診断だけではなく、診療支援、研究、学会発表、論文作成など、医療のさまざまな場面で急速に活用が広がっており、その進歩の速さに驚かされる内容でした。講演後には活発な質疑応答が行われ、会員の先生方の関心の高さを改めて感じたところです。

AIはこれからの医療に欠かすことのできない存在となるでしょう。しかし、医療は決してAIだけで成り立つものではありません。患者さんとの信頼関係はもちろんのこと、医師同士が顔を合わせ、悩みや経験を共有し、互いに支え合うことの大切さは、AI時代だからこそ、ますます重要になるのではないかと思います。

勤務医を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。少子高齢化による高齢者医療需要の増加、働き方改革への対応、地域医療構想への対応など、勤務医に求められる役割は年々広がる一方です。日常診療、救急医療、当直、委員会活動、病院運営など、多くの役割を担いながら、それぞれの現場で懸命に診療にあたっておられる先生方も多いことと思います。

そのような勤務医の声を医師会へ届けることが、本会の本来の役割です。しかしながら、現在の会員数は159名と、近年減少傾向にあります。勤務医の声をより大きなものとするためには、より多くの先生方に本会へ参加していただき、多様な意見を集約していくことが不可欠です。

そこで本会でも、活動の見直しを行いました。これまで長年開催してまいりましたゴルフ大会は、令和6・7年度に参加者減少のため開催を見送りましたが、今後も参加者の増加が見込めないことから、本年度をもって終了することといたしました。その一方で、勤務医同士の交流をより深めることを目的として、新たに年1回の「会員懇談会」を開催することといたしました。（詳細を6ページに記載しております。）ゴルフをされる先生だけではなく、多くの会員の先生方が気軽に参加し、診療科や病院の垣根を越えて語り合える場となれば幸いです。このような「顔の見える関係」が、本会の活性化につながり、ひいては札幌の勤務医療全体の発展につながるものと期待しております。

さて、本年6月に施行された診療報酬改定では、医師の働き方改革を踏まえた評価や処遇改善が盛り込まれました。しかし、その恩恵を受けやすいのは体制整備の進んだ大規模病院であり、中規模以下の病院に勤務する医師にとっては、必ずしも十分な改善を実感できる内容ではありません。むしろ、新たな施設基準への対応や運用負担など、現場の負担が増えたと感じる先生方も少なくないのではないのでしょうか。

勤務医が安心して診療に専念できる環境を実現するためには、病院規模や地域の実情を踏まえた制度設計が必要です。本会としても、現場の声を丁寧に拾い上げ、札幌市医師会へ届ける役割を果たしてまいりたいと考えております。

AIが急速に進歩する時代だからこそ、人と人とのつながり、勤務医同士のネットワークの価値は決して失われることはありません。本会がその架け橋となり、勤務医の声を結集できる組織として発展していけるよう、今後とも先生方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、会員の先生方の益々のご健勝とご活躍を心より祈念し、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

（J R 札幌病院）

所 感

「幹事就任のご挨拶」

幹事 本間 重紀

昨年度より勤務医協議会の幹事を務めることになり、さらに本年 4 月からは札幌厚生病院の病院長を拝命し、勤務医を取り巻く課題をこれまで以上に身近なものとして考えるようになりました。病院長という立場になってみると、一人ひとりの勤務環境を整えることが、医療の質と安全、ひいては病院全体の持続性にもつながっていくのだと、あらためて感じるようになりました。幹事の立場で多くの先生方の声に触れるなかで、日々現場で感じていた負担や違和感は、決して自分一人のものではないのだと、あらためて実感しています。同時に、立場や診療科、勤務先が違っていても、率直に話し合うことで見えてくることが多く、私自身にとって大きな学びにもなっています。日々の診療に追われるなかで、「勤務医であること」の意味をあらためて考える機会は、実はそれほど多くありません。外来、病棟、救急、当直、会議、書類作成、後進の指導と、私たちの仕事は常に時間とのせめぎ合いです。それでも、患者さん一人ひとりに向き合い、限られた資源のなかで最善を尽くすことが、地域医療を支える勤務医の役割なのだと私は思います。札幌の医療は都市部の機能を担うだけでなく、北海道全体の医療とも深くつながっており、その責任の重さを日々感じています。

近年、医師の働き方改革が本格的に進み、勤務環境の見直しが大きなテーマとなっています。もちろん長時間労働の是正は重要ですが、単に労働時間を減らせば解決するほど、医療現場は単純ではありません。患者数の変化、救急対応、地域ごとの医師偏在、専門性の維持、若手医師の育成など、現場には一つひとつ丁寧に考えるべき課題があります。働き方改革とは、勤務医の負担を数字の上で整理することではなく、医療の質と安全を守りながら、持続可能な体制をどう築くかを考えることだと私は思います。そのためにも、現場の声を集め、共有し、発信する場はますます大切になるでしょう。

そう考えると、札幌市勤務医協議会の存在意義は決して小さくありません。勤務医は施設や診療科、年代によって置かれている状況が異なりますが、現

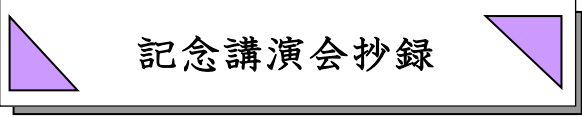
場で感じる課題には多くの共通点があります。業務の過重さ、病院経営の厳しさ、多職種連携の難しさ、若手のキャリア形成、そして地域医療を守る責任。こうした課題は、個人や一つの施設だけで抱え込むにはあまりに重く、横のつながりの中で言葉にし、知恵を持ち寄ることで見えてくることも少なくありません。私自身、幹事としてさまざまな先生方の声に触れるなかで、協議会は単なる親睦の場ではなく、勤務医の立場から医療の未来を考えるための大切な基盤なのだと感じています。

また、勤務医は忙しさのあまり、自分の視野が所属施設の中だけに閉じてしまうことがあります。しかし、札幌市内だけを見ても、急性期、専門、回復期、慢性期、在宅医療との連携など、医療は多層的なつながりの上に成り立っています。自院での常識が他院では必ずしも常識ではなく、逆に他施設の工夫から学べることもあります。顔の見える関係を築き、率直に話し合える土壌を育てることは、結果として患者さんへのより良い医療につながります。情報交換や交流は遠回りに見えて、実は地域医療を支える現実的な力の一つなのだと思います。

医療を取り巻く環境は今後も厳しさを増していくと思います。人口構造の変化、物価上昇、医療資源の制約、価値観の多様化など、勤務医をめぐる課題はむしろ複雑になっています。それでも、現場で働く私たちが声を失わず、互いの経験に学び、次の世代へより良い環境を手渡していこうとする姿勢そのものが、医療を支える力になるはずです。札幌市勤務医協議会ニュースが、そのための小さくても確かな対話の場であり続けることを願っています。私自身も幹事の一人として、現場の声を丁寧にすくい上げながら、勤務医が少しでも前向きに働ける環境づくりに、これからも自分なりに力を尽くしていきたいと思います。

(札幌厚生病院)





記念講演会抄録

「医療 AI の現在と未来」

—臨床・研究・学会発表・論文作成における実践的活用—

北海道大学大学院医学研究院 画像診断学教室
教授 工藤 與亮 先生

近年、生成 AI の進歩は極めて速く、医療現場にも大きな変化をもたらしつつあります。2022 年に ChatGPT が登場して以降、AI は一部の研究者や IT 技術者だけのものではなく、日常診療や研究活動の中で、一般の臨床医が実際に使うツールへと変化しました。今回の講演では、生成 AI を「明日から使える実践的な道具」として、臨床・研究・学会発表・論文作成にどのように活用できるかを紹介しました。

現在、多くの医師が「AI は医師を置き換えるのか」という疑問を持っています。しかし実際には、AI は医師を代替するものではなく、医師の能力を拡張するツールです。大量の情報整理、文章作成、翻訳、検索、パターン認識といった領域で AI は非常に高い能力を発揮します。一方で、患者背景を踏まえた総合的判断、倫理的配慮、患者との信頼関係構築などは、依然として医師の役割です。今後は、「AI を使う医師」と「使わない医師」の差が、徐々に大きくなっていく可能性があります。

講演では、ChatGPT、Gemini、Claude、Perplexity、NotebookLM、Gamma など、現在利用可能な主要 AI ツールについて紹介しました。それぞれ得意分野が異なり、用途によって使い分けることが重要です。ChatGPT は汎用性が高く、文書作成、翻訳、研究相談、プログラミングなど幅広い用途に使えます。Claude は長文読解や論理的文章作成に優れ、論文校正や査読返信などに適しています。Perplexity は引用付き検索が可能であり、最新論文やガイドライン調査に有用です。Gamma はプレゼンテーション自動生成ツールであり、実際に今回の講演スライドも Gamma を利用して作成しました。

臨床現場では、AI はすでに「使えるツール」になりつつあります。例えば、紹介状や退院サマリーを AI に入力し、「SOAP 形式で要約してください」と指示するだけで、構造化されたサマリーを短時間で作成できます。鑑別診断についても、「考えられる疾患を頻度順に列挙し、それぞれの支持所見・除外所見

を示してください」と入力することで、思考整理や見落とし防止に役立ちます。また、患者向け説明文の作成も有用であり、「MRI 検査を 60 代患者向けにわかりやすく説明してください」と指示するだけで、比較的平易な説明文が生成されます。

放射線科領域では、AI の導入は特に急速に進んでいます。胸部 X 線、CT、MRI における病変検出 AI はすでに実用段階に入りつつあり、肺結節、脳梗塞、骨折などの検出支援が臨床導入されています。また、Deep Learning Reconstruction による MRI 高速化、腫瘍や臓器のセグメンテーション、読影ワークリストのトリージなども実用化が進んでいます。今後は、電子カルテ、画像、検査値を統合的に解析するマルチモーダル AI の発展により、診療支援の在り方そのものが変化していく可能性があります。

研究活動においても、AI は非常に有用です。研究テーマの壁打ち、PICO 形式でのリサーチクエスション作成、研究計画書の骨子作成、統計解析相談、英文校正、Abstract 作成、査読返信など、多くの工程を支援できます。従来、研究者が長時間を費やしていた「文献整理」「英語化」「文章の下書き作成」を AI が補助することで、研究のスピードと効率は大きく向上します。特に若手医師にとっては、研究のハードルを下げる可能性があります。

学会発表準備でも AI は強力です。発表構成案作成、英語抄録作成、スライド生成、想定質問作成、英語発表練習など、ほぼ全工程で活用可能です。例えば、「この研究内容で 10 分発表用のスライド構成を作成してください」と指示すると、背景、方法、結果、考察、まとめまで含めた構成案が短時間で提示されます。また、「この研究の弱点を指摘し、厳しい質問を 5 つ作ってください」と依頼すると、AI は“査読者役”として機能します。事前に批判的視点を取り入れることで、発表や論文の質を向上させることができます。

一方で、AI 利用には注意点もあります。特に重要なのが「ハルシネーション」です。AI は、存在しない論文、誤った DOI、架空の著者名などを、もっともらしく生成することがあります。そのため、文献情報は必ず PubMed などでも独立確認する必要があります。また、患者個人情報や生成 AI へ入力することは、個人情報保護上大きな問題となります。入力時には匿名化を徹底し、施設のガイドラインに従う必要があります。さらに、近年は多くの医学雑誌が AI 利用の

開示を求めている、論文投稿時には AI 使用の透明性確保も重要になっています。

講演では、今後の医療 AI の方向性についても紹介しました。特に注目されるのが、「AI エージェント」と「Medical Foundation Model」です。単なる質問応答ではなく、「文献検索→要約→スライド作成→メール作成」といった複数タスクを自律的に行う AI エージェントが登場しつつあります。また、電子カルテ、画像、病理、検査値などを統合した巨大医療基盤モデルの開発も進んでいます。さらに、AlphaFold に代表される「AI for Science」の流れは、創薬や医学研究そのものを変革しつつあります。

AI の進化は非常に速く、数か月単位で状況が変わります。そのため、「完璧に理解してから使う」のではなく、「まず使ってみる」ことが重要です。実際に触れながら、自分の業務に合った使い方を見つけることが、AI 時代における最も現実的な学習法だと考えています。

AI は医師を不要にする技術ではありません。むしろ、医師が本来行うべき「患者と向き合う時間」を増やすための技術です。AI が得意とする大量処理や情報整理を活用しながら、医師はより高度な臨床判断や患者対応に集中できるようになる可能性があります。今後の医療において、AI をどのように安全かつ適切に取り入れていくかが、重要な課題になると考えられます。

※このニュース記事も、講演スライドを生成 AI (Chat GPT) にアップロードして、1 分で作成しています。生成 AI は診療・研究・教育に充てる時間の確保に有効な手段です。

メールアドレス登録のお願い

講演会のご案内や重要なお知らせを迅速にお届けするため、メールアドレスをお持ちの先生は下記 QR コードからぜひご登録をお願いいたします。



第 38 回札幌市勤務医協議会
定時総会について

令和 7 年度札幌市勤務医協議会事業報告

月日	事 業 内 容
7 年	
4.10	・ 第 1 回役員会 第 1 号 第 37 回札幌市勤務医協議会定時総会関連事項について 第 2 号 令和 7 年度産業医研修会について 第 3 号 その他：勤務医協議会ニュース (No.62) 発行について
5.26	・ 第 37 回定時総会 1. 報告事項 第 1 号 令和 6 年度事業報告 第 2 号 令和 6 年度会計収支決算 第 3 号 令和 6 年度監事報告 第 4 号 その他 2. 協議事項 第 1 号 令和 7 年度事業計画案に関する件 第 2 号 令和 7 年度会計収支予算案に関する件 第 3 号 役員改選に関する件 第 4 号 顧問・参与の委嘱に関する件 第 5 号 その他 ・ 記念講演会 テーマ：「人生出合いで決まる」 講 師：タカハシグループ 会長 高橋 康弘 様
8.15	・ 『勤務医協議会ニュース No.62』発行
8.21	・ 産業医研修会（産業医協議会主催） 場 所：札幌市医師会館 テーマ：「職場における女性健康管理体制の確立」 講 師：産業医科大学産業生態科学研究所 災害産業保健センター 教授 立石清一郎 先生 参加者：108 名
9.2	・ 札幌市病院協議会との合同講演会 場 所：札幌市医師会館（ハイブリッド開催） テーマ：「医療 AI で未来の医療を作る」 講 師：北海道大学大学院医学研究院画像診断学教室教授 北海道大学病院放射線診断科長 北海道大学病院医療 AI 研究開発センター長 工藤 與亮 先生 参加者：68 名
9.19	・ 産業医研修会（産業医協議会主催） 場 所：札幌市医師会館 テーマ：「働き方改革後の最近の労働状況と生活状況」 講 師：北海道産業保健総合支援センター 所長 森 満 先生 参加者：162 名
11.10	・ 産業医研修会 場 所：札幌市医師会館 テーマ：「高血圧管理・治療ガイドライン 2025 のポイント」 講 師：JR 札幌病院 腎臓内科 副院長 吉田 英昭 先生 参加者：146 名

11.18	・ 令和7年度全国医師会勤務医部会連絡協議会 場 所：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING (盛岡市) メインテーマ 『勤務医が生き生きと活躍できる場を作る ～混沌を成長の機会に～』 参加者：鶴間会長、西川幹事、中川幹事
8 年	
1.19	・ 勤務医委員会・札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会合同懇談会 場 所：札幌市医師会館
2.7	・ 第46回札幌市病院学会 演題数：86題(23医療機関) 参加者：335名
2.20	・ 産業医研修会(産業医協議会主催) 場 所：札幌市医師会館 テーマ：「地域(札幌市)、国立感染症研究所、世界保健機関でのCOVID-19を含む対策経験を踏まえた職場での感染症対策」 講 師：札幌市保健福祉局 医務・保健衛生担当局長／国立感染症研究所名誉所員 西條 政幸 先生 参加者：141名 令和8年4月17日現在会員数 159名 (前年度比-11名)

令和7年度札幌市勤務医協議会収支決算報告

【収 入】

項 目	予算額	収入額	増減比	摘 要
会 費	498,000	305,248	-192,752	会費(103名)
札 医 交付金	400,000	400,000	0	札医交付金
雑収入	1,000	24,463	23,463	祝儀・預金利息
繰越金	2,559,195	2,559,195	0	前年度繰越金
計	3,458,195	3,288,906	-169,289	

【支 出】

項 目	予算額	支出額	増減比	摘 要
会議費	500,000	264,000	-236,000	役員会費用弁償 懇親会経費
事業費	800,000	417,744	-382,256	病院学会経費外
通信費	400,000	96,884	-303,116	ニュース発送外
慶弔費	100,000	43,000	-57,000	香典
事務費	100,000	70,000	-30,000	病院学会事務費
予備費	1,558,195	0	-1,558,195	
計	3,458,195	891,628	-2,566,567	



令和8年度事業計画

No	事業項目	予定回数	担当部	備 考
1	総 会	1	総務部	
2	講演会	1	総務部	(例年は総会と同日開催)
3	役員会	6回以内	総務部	
4	会員懇談会	1	厚生部	
5	部長会	適宜	総務部	
6	学術講演会	1	事業部	2～3月頃病院協議会と合同
7	産業医研修会	1 (主催) 2～3 (共催)	事業部	主催:11月頃開催 共催:産業医協議会と調整して開催
8	勤務医委員会・病院協議会との懇談会	1	総務部 事業部	全国勤務医部会開催後予定
9	病院学会共催	1	事業部	令和9年2月6日(土)開催予定
10	札幌市勤務医協議会ニュース発刊	適宜	総務部	随時発刊予定
11	札医通信執筆	適宜	総務部 会計部 事業部 厚生部	勤務医協議会活動について (加入促進等)
12	全国医師会勤務医部会連絡協議会	1		11月7日大分県

令和8年度札幌市勤務医協議会収支予算

【収 入】

項 目	予算額	(前年度)	増減比	摘 要
会 費	477,000	498,000	-21,000	会費(159名)
札 医 交付金	400,000	400,000	0	札医交付金
雑収入	1,000	1,000	0	預金利息
繰越金	2,397,278	2,559,195	161,917	前年度繰越金
計	3,275,278	3,458,195	182,917	

【支 出】

項 目	予算額	(前年度)	増減比	摘 要
会議費	500,000	500,000	0	総会経費外
事業費	800,000	800,000	0	各部事業活動等
通信費	400,000	400,000	0	各種会議等開催案内等
慶弔費	100,000	100,000	0	弔慰見舞
事務費	100,000	100,000	0	事務用消耗品外
予備費	1,375,278	1,558,195	182,917	
計	3,275,278	3,458,195	182,917	

札幌市勤務医協議会「会員懇談会」の開催

このたび、勤務医同士の交流をより深め、会員相互の親睦を図ることを目的として、下記のとおり会員懇談会を開催いたします。

本懇談会は、診療科や病院の垣根を越えて交流を深めていただき、多くの会員の先生方が気軽にご参加いただける場として企画いたしました。このような「顔の見える関係」を築くことが、本会のさらなる活性化につながり、ひいては札幌の勤務医療全体の発展にも寄与するものと期待しております。

ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

日 時：令和8年9月10日(木)19時～

場 所：プレミアホテル中島公園札幌 24 階 日本料理「和乃八窓庵」

(中央区南 10 条西 6 丁目 1-21 TEL :011-561-1000)

会 費：お一人様 3,000円

対象者：札幌市勤務医協議会会員 並びに その同伴者(勤務医)

- ・会員1名につき、当協議会非会員の先生を2名までご同伴いただけます。
- ・ご同伴いただく先生につきましては、当協議会へのご入会をご検討いただくことを条件に、本懇談会の参加費は無料といたします。
- ・なお、ご同伴者が多数となった場合は、ご同伴いただける人数を調整させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

出 欠：9月1日までに下記よりご回答をお願いいたします。

<https://forms.cloud.microsoft/r/KTgVMhZbmM>



【連絡先】札幌市医師会事業二課 加我(札幌市勤務医協議会担当)

TEL 611-4181 FAX 643-1511

E-mail: a-kaga@spmed.or.jp

「札幌市勤務医協議会ニュース」の閲覧について

「札幌市勤務医協議会ニュース」を札幌市病院協議会のホームページに掲載しております。バックナンバーも閲覧できますので、是非ご覧ください。

札幌市病院協議会ホームページ URL

<https://www.sapporo-byoinkyo.jp/>

